

「新しい東北」官民連携推進協議会

平成 30 年度 岩手県意見交換会（第 3 回） 議事要旨

平成 31 年 3 月 8 日

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

【日 時】平成 31 年 3 月 8 日（金）10:15～12:00

【場 所】復興庁岩手復興局 4 階会議室

【出席者】

<会員>（所属の五十音順、敬称略）

株式会社岩手銀行、岩手県、国立大学法人岩手大学、特定非営利活動法人いわて連携復興センター、
復興庁総合政策班、復興庁岩手復興局

<ファシリテーター>

エイチタス株式会社

<事務局>

NEC ソリューションイノベータ株式会社

【議事概要】

1. 各団体の取組紹介

各団体が用意した資料に基づいて、各団体より取組の紹介を行った。

2. 意見交換

以下について、ファシリテーターより説明を行った。

- ・当初の活動の方向性と今年度のスケジュールの確認
- ・「関係人口×〇〇で考える三陸の未来」の開催概要と総括
- ・それらを踏まえた検討事項としての「イベントの振り返りおよび今年度の成果」「関係人口についての意見交換」「次年度以降の活動テーマ」

○イベントの総括および振り返りについて

- ・もう少し幅広く多くの方に参加をしてもらえるとよかった。
- ・今回は、関係人口という大きなテーマを掲げ、焦点を絞るというよりも幅広く捉えていこうという方向性であった。まずは関係人口の捉え方を幅広く知ってもらうことであり、そこで得た気づきを個々人としてできることにつなげていくことであった。
- ・テーマに幅を持たせることによって集客を狙った部分もあり、気軽に関心のある方に集まっても

らいたいという思いがあった。あえて焦点を絞らずに、様々な関係人口の捉え方があるということを知ってもらうことが大事なのだろう。

- ・地元にいる人や、外部からの支援を受け入れた人などにも、もっと参加をしてもらえると、より議論が深まったのではないかと思う。
- ・震災後、様々な関わりを持っていただいた方もおり、岩手の応援団になっていただいている方も多くいる。いかに繋がりを維持していくかが大事なのだと思う。
- ・沿岸部の企業関係者にも参加を呼びかけることができればよかった。

○次年度以降の活動テーマについて

- ・復興のステージによって、地域振興や地方創生を繋げていく取り組みが深まってくると良いと思う。
- ・復興から地域創生へという視点においては、地方の企業数が減っている現状を踏まえ、創業も一つのテーマになってくると思う。実際に創業した事例もある。どのように事業を広げてきたのか、そうした話題を取り上げ、広げていくことも復興庁の役割なのだと思う。
- ・地域でチャレンジをしている人をどのように応援していくか、そのスキームづくりが必要ではないか。民間ではあるがソーシャル寄りの活動をしている方も多く、次に挑戦する人を増やすためにも、それぞれが持っている支援メニューの中からサポートをしていくことが大事だと思う。
- ・沿岸と内陸の繋がりが希薄になっていることから、もう少し何かできないだろうか日々考えている。震災前は内陸部から沿岸部に気軽に遊びに行くような感覚があったが、震災によって、そうした環境は途切れたまま。高速道路もでき、三陸鉄道も全線開通するなかで、海外の方の呼び込みももちろん大事だが、岩手県内の方が自分たちの地域を「いいよね」という気持ちになってほしいと思う。それぞれが「もっとこうしたい」「こうあったら良い」ということを話す場がもっとあっても良いのではないか。
- ・来年度は議論の回数を増やせると良いのではないか。また、地域振興に携わっている方や市町村の方にも関わってもらえると良いのではないか。
- ・意見交換会のオブザーバー参加も含め、検討を進めていくこととする。

以上